

令和6年12月3日

今後の精神医療センターの 新たな枠組み(案)

— 名取市内での建て替えを受けて —

宮城県精神科病院協会

精神医療センターの名取建て替えが表明され、新たな局面に入りました。

がんセンターと仙台赤十字病院の統合新病院は日本赤十字社が運営することになっており、県立病院機構が運営する病院は精神医療センターだけになります。

法律上、都道府県立精神病院を設置する義務があるので、県は精神医療センターを民間に委譲することはできません。県の責務はこれからも続きます。

(精神保健福祉法第19条の7)

身体合併症への対応と移転先が当面の課題とされていますが、この3年間を取り戻すためにも急がなければなりません。

仙台赤十字病院とがんセンターの“統合・新病院”のコンセプトには「救急車をすぐに受け入れる病院」、「安心・安全な出産ができる病院」と書かれています。

そうすると、リストカットや大量服薬等で救急搬送された患者は精神医療センターとの連携が不可欠になります。また、周産期のメンタルヘルスも今後重要な課題になってきます。

このため、統合・新病院との連携も含めた「新たな枠組み」の検討が必要になります。

新たな枠組み(イメージ)

統合・新病院

【仙台赤十字病院+がんセンター】
400床程度
35の診療科 (含・精神科)

【コンセプト】

- 救急車をすぐに受け入れる病院
- 安心・安全な出産ができる病院
- 最適ながん医療を提供する病院
- 赤十字らしい病院

近隣の一般病院

地域連携(にも包括)

精神医療センター

170床程度?

東北労災病院

富谷に精神科通院医療機関?

民間単科精神科病院

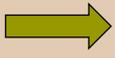
児童思春期 関連施設

精神科診療所

※ 身体合併症対応

救急搬送実施基準

精神状態が不安定な身体合併症、意識障害等、あるいは判別困難



東北大学病院
仙台市立病院
仙台医療センター
東北医科薬科大学病院

精神医療センター(あり方検討会議)

政策的医療の推進

- ◆ 24時間365日の救急
- ◆ 治療困難例に対する高度専門医療

移転先の4候補

1. がんセンター跡地
2. 現地建て替え
3. グランド(応急仮設住宅跡地)
4. 農場跡地

- それぞれに長短はあるが、がんセンター跡地では時間がかかり過ぎる。その間に老朽化は更に進み、無駄な修理費が発生する。
- 担う医療に見合うだけの病床規模、アメニティー、医療機器が必要だが、マンパワーの維持も重要な課題になる。
- 病院周辺的环境も精神科医療にとっては重要な因子である。

がんセンター跡地



がんセンター
空くのは早くても2030年

看護学校跡地(県有地)
民間公募で提案された土地

→ 名取駅方面

高館・愛島方面 ←

東北新幹線

仙台高専

がんセンター
駐車場

仙台高専
学生寮

かつて断念した候補地

利点: 整地済み。
欠点: 完成まで時間を要し、その間に修理費がかさむ。
周辺道路より高く徒歩での通院には不便。
周辺から孤立した環境で生活感に乏しい。

精神医療センター周辺（現地・グラウンド・農場跡地）



宮城県立病院機構所有地

精神医療センター
22,800㎡

県道258号線

仮設住宅跡地
通称グランド
13,000㎡

名取病院時代の“農場”
31,200㎡

“農場”は農作業と呼ばれる作業療法のために、畑や果樹林として整地されていた。

緑: 県立病院機構所有地 (総計67,000㎡)

青: 県有地 (進入路として利用可能)

※ 総計67,000㎡は、東北労災病院と合築する予定だった富谷市明石台の土地面積に匹敵する。

新たな枠組みを意識した病院建築を急ぐべきである。

富谷の土地の購入費(恐らく数億円)は必要なくなるが、老朽化した現センターの修理費より、新しい病院を早急に建築するためにこそ資金を投入するべきである。

専門家、当事者、現センター職員、地域の関係者、及び、行政が英知を出し合って、数十年先を見通した斬新な病院が完成することを切に希望する。